

郷土紹介

大山道場にかかわる

平井夏子

地元用賀の郷土史が好きという方が月に一度集まつて活動をする大山道場も、今年で四年目となりました。

大山道場では、用賀を通る大山道をテーマに、勉強やまら歩きをしたり、昔から用賀に住んでいろ方に昔の用賀の風景を教えていただいたりしています。

大山道については既に何度も紹介されていますが、江戸時代中期頃から盛んになつた大山詣での際に通つた道です。大山道はいわゆる鎌倉道と同じで、大山に通じる道は全部大山道と呼ばれます。なので、大山道は各地にいくつもあるので

云えますが、かつて、結婚式祝宴で、小説「高砂」や、「この浦舟に帆を上げて……」が、よく謡われました。

又、金沢や佐渡では、謡が空から降つて来る……と云う話も残っています。

そして、戦国時代の武将細川幽斎は、謡曲十五徳と謡曲を身に付けると、十五の徳があると伝えていました。その、いくつか……

行かずして名所を知る習わすして歌道を識る老いすして古事を知る恋せずして美人を想う

すが、用賀を通る大山道は主に江戸方面から大山に行く人が通つた道となります。

また、用賀は大山方面に

川の状態が良くなるのを待つたりする場所でもあります。

現在の大山通り沿いの、メガネ屋さんがある場所に

は、かつて飯田楼（のちに飯島旅館）という旅館もありました。

このあたりの詳しいことは歴史を彩る用賀の道いまおかし山という大山道場の

参加者で作成した、お散歩マップに載つていますので、是非お手にとつて見て下さい。

用賀商店街のハローポ

スがという場所で配布してい

ます。（用賀まちづくり活動委員会）

一方、戦後、私たちの生

活環境は和から洋へと大き

く流れが変わりました。

現代社会は時間に追われ

情報過多の渦の中、ストレ

スが溜りがちです。

一方、戦後、私たちの生

活環境は和から洋へと大き

く流れが変わりました。

家庭を着る機会が減り、正座をする習慣も薄れています。

今、私たちは日本の伝統芸能を通じて、日本

の文化を見直す時が来て

いる様に思います。

和の文化を見直す時が来て

いる様に思います。

和の文化

飯田恭次

謡曲のすすめ

蒸なくして鬱氣を散す

等々があります。

現代社会は時間に追われ

情報過多の渦の中、ストレ

スが溜りがちです。

一方、戦後、私たちの生

活環境は和から洋へと大き

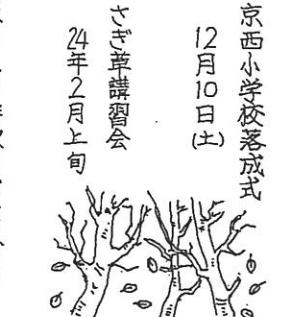
く流れが変わりました。

家庭を着る機会が減り、正座をする習慣も薄れています。

今、私たちは日本の伝統芸能を通じて、日本

の文化を見直す時が来て

いる様に思います。



スポート



古着・古布の回収

12月10日(土)9時～12時
京セラミタ(構)駐車場
(玉川台2-14)

歳末助け合い 蔡金運動

11月17日～12月16日
京西小学校落成式24年2月上旬
さぎ草講習会

自転車はルールを守って

振り込み詐欺にご注意を！

安全に乗りましょう

戸締まり用心・火の用心

ひづれひと用賀

賀千直 高橋登子

長い間、用賀で暮らして

いますと、過ぎ去った昔の

様子が、今でも懐かしく思

い出されます。

子供の頃の、まちの姿は

長閑な田園風景が広がり、

煙、田園、雜木林、原

っぱ、秋から冬にかけ

ての、木枯らしの吹く

い遊び場でした。

いつしかそこも、商

店や住宅に変わり、昔

の面影はなくなりました。

まちの中心は、用賀駅で

商店街が広がり、まちは賑

やかになり、必要なものは

ほとんどそろい、便利にな

りました。

木枯らしの吹く原っぱは

少なくなり、そして今は、

今は、ほとんど使われる

ことは無くなりました。

わが故郷

原へうえっぱら

新堀端、本村(ほんむら)、中丸、向原(むかははら)、上人塚など、

かいはら)、上人塚など、

様々な字名がありました。

今は、ほとんど使われる

ことは無くなりました。

用賀にはその他にも、

新堀端、本村(ほんむ

ら)、中丸、向原(む

かははら)、上人塚など、

様々な字名がありました。

今は、ほとんど使われる

ことは無くなりました。

今まで出あつて

日頃のなにげない世間話が

出来ることを、今、とても

幸に感じます。

また昔を思い起こすと、

私のかつての住まいには上